

地域づくり活動の行動計画

岐阜市民病院

2024年度
地域緩和ケア連携調整員研修 ベーシックコース

【チームメンバー】

参加施設・所属	氏名(職種)
岐阜市民病院 地域連携部 患者総合支援センター	柴田万祐子 (センター長: 医師)
岐阜市民病院 地域連携部 患者総合支援センター 後方連携係	塩谷由紀美 (係長: 看護師・社会福祉士)
岐阜市民病院 地域連携部 患者総合支援センター 後方連携係	足立理恵 (医療ソーシャルワーカー: 社会福祉士)

① 選定した地域の課題

- ・ AYA世代の制度がない。患者・ご家族の病状認識の不足により療養場の選定に難渋する
- ・ 緩和ケアチームと地域連携部間の連携が不十分

② どんな地域を目指すのか

- ・ AYA世代も含め全ての世代が過ごしたい場所（医療型の施設・自宅・緩和ケア病棟）で過ごせることができるような地域

③ 目指す地域を実現するために取り組むべきこと

- ① AYA世代については行政に働きかける
AYAチームと地域連携部が連携する
緩和ケアチームとの連携を深める
- ② 病院間のカンファレンスや症例検討カンファ
レンスを継続して地域の医療従事者との情報
共有を継続することで、地域との関りを深め
ていく
- ③ 十分な療養環境が提供できるよう行政へ働き
かけていく

④ 具体的な行動計画 と

- ① AYAチームが金銭的な面について理解しているかなど情報共有する
- ② AYAチーム・緩和ケアチームに積極的に参加する（お互いに声がかかけやすい関係づくりをする）
- ③ 症例カンファレンスの回数を2~3か月に1回へ増やす。多職種で症例提示を持ち回りにする
- ④ 市民公開講座において相談コーナーを設ける、現在、行っていることを強化する
- ⑤ 医療型の施設のリソースを把握する

⑤ 目標達成時期

- ①~② すぐに始める
- ③~④ 来年度からスタートする
- ⑤ 来年度1年かけて実施